# 同窓会のチカラ

## 同窓会のための情報誌

## 2017

特集●女子力の今

・女歯会というカタチ：九州大学歯学部同窓会 女歯会

・繋ぐ力を育む：京都市立堀川高等学校 堀川同窓会

・立ち上がる女性部会：新潟県立高田高等学校校友会 女性部会

・女子グルメの会：茨城県立水戸第一高等学校　東京知道会

紹介●同窓会活動紹介

・わっぜ甲南 いっど甲南：鹿児島県立甲南高等学校同窓会青年部会

・未来を綴るために：大分県立大分雄城台高等学校同窓会首都圏支部

・図書館に行こう !!：埼玉縣立本庄高等學校同窓会

リレー連載●私と同窓会

・毛利一幸（佐賀県立唐津商業高等学校若桐同窓会会長）

わが学び舎

・愛媛県立西条高等学校道前会


Vol. 9

*Our Proud*

愛媛県立西条高等学校／旧西条藩陣屋跡
（1640 年頃の構築。大手門は現在正門として残る）

# 女歯会（じょしかい）というカタチ

## 九州大学歯学部同窓会 女歯会

### 人と人をつなぐ力を生み出す同窓会の原点

●連絡先
〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出 3-1-1
九州大学歯学部同窓会事務局
TEL & FAX 092 - 642 - 6245
E-mail : dousojim@dent.kyushu-u.ac.jp

左：久保　秀郎（くぼ・しゅうろう）氏
九州大学歯学部同窓会会長
右：原田　則子（はらだ・のりこ）氏
九州大学歯学部同窓会副会長

●九州大学歯学部同窓会には、学部同窓会とは別に女性だけの同窓会内同窓会「九州大学歯学部女歯会」がある。理系の中では女性の多い学部ではあるが、女性特有の悩みもあり、同窓会から遠ざかってしまいがちだという。昨今しばしば耳にする同窓会活動への参加率の低下と、それへの対策も含めた、女性の社会的存在のアピールを主眼とした「女歯会」の現状を、九州大学歯学部同窓会会長・久保秀郎氏と副会長の原田則子氏に伺った。

九州大学歯学部は、二〇一七年に創立五十周年を迎えます。かつてはともかく、現在では歯学部の四割くらいが女性です。もっとも九大全体の三割弱が今や女性です。それもあって九大には全学同窓会とは別に「九州大学女子卒業生の会」という団体もありまして、通称「松の実会」と申します。これは昭和四十二年（一九六七）、女性の地位向上と卒業生の親睦などを目的に結成されたもので、二〇一六年に五十周年を迎えました。

九大の女子の卒業生は全員ここにも所属するわけですが、なにぶん人数も多いですし、きめ細かな活動となると、なかなか難しい部分もあります。そこで歯学部では、女子の繋がりを中心に据えた同窓会「女歯会」を立ち上げたわけです。卒業後の仕事が多忙だったり、結婚して家庭や育児にかかりっきりになったりと、ややもすると母校や社会との関係が途切れがちになるOGに、同窓会に参加し、積極的に活動してもらいたい、というのが設立の趣旨です。

そうして二〇一三年、第一回の「女歯会」が福岡市内のレストランで開かれました。参加者は三十人ほどで、顔ぶれは、学生、研究員、勤務医、開業医、主婦など実にさまざまです。まあ数は少なかったものの、それでもこの会の活動が伝わっていくに連れて参加者も増え、現在では毎回七十から八十人ほどにもなっています。会合では、相互の親睦はもちろんですが、女性の意識の改革を目的として、数名のスピーカーにそれぞれの立場から、ご自分の活動ぶりなどを話してもらいます。また女性の集まりですし、家庭を持っている方などの状況を考えて、出席しやすい日曜日にランチ形式で行っています。更に二〇一六年からは専門のベビーシッターも用意しました。また参加者の増加に伴い、会場もサービスが充実したホテルに代りました。

とにかく「女歯会」としては、まずは女性が出て来やすい同窓会にするというのが課題です。実際、結婚、出産、子育てなど多くの女性が抱える悩みもあって、女性が同窓会に積極的でない傾向にあるのも事実です。ですから、あの手この手で雰囲気づくり環境づくりをしているわけです。

この会も、初めは懇親会のようなものでした。やがて話し合いをしていくなかで方向も見え出し、第三回目からはテーマを決め、具体的な「生き方」の実例の紹介を主体にした内容となっています。例えば、仕事をし趣味をし子育てもし、というマルチな方の講演ですとか、各方面で活躍されておられる方、などですね。また九大には九大歯学部出身の女性教授がまだおりません。創部半世紀を経て一人もいないというのは非常に残念なことです。しかし他大学で教授をなさっている方はたくさん居られます。そうした方々のお話は様々なレベルで有益ですし、生々しい言い方ではありますが、学生等にとっては将来の進路を考える上でも大いに参考になると思います。また家庭に入っておられる方々にとっても、決して無縁な世界の話ではありません。実際、各方面で活躍されておられる方々のお話は刺激的で、一人一人の背を押してくれるような力強さを感じます。

この会には現役の学生も参加できますが参加者はわずかです。歯科医師の免許を取るまで大変なことは確かですが、それにしても余裕がない。もちろん「国家試験」は人生の一大事ですから、こちらも参加を強く勧めることはできません。OGの積極的な出席と同時にこうした若い人の参加をどう促すか、更には他学部同窓会との横のつながりをどう開発し発展させていくかが目下の課題ですね。■

▲女歯会の風景。子連れ参加者も多い。（2016 年 10 月）

# 繋ぐ力を育む

## 京都市立堀川高等学校 堀川同窓会

### 人と人をつなぐ力を生み出す同窓会の原点

●連絡先
〒604-8254
京都市中京区東堀川通錦小路上ル四坊堀川町 622-2
京都市立堀川高等学校内
TEL：075-211-5351・FAX：075-211-8975
E-mail：horikawa@edu.city.kyoto.jp
市田ひろみ（いちだ・ひろみ）氏（高校３回）堀川同窓会会長

●京都市立堀川高等学校は一九〇八年（明治四十一年）設立の市立高等女学校に端を発する。後に市立第一高等女学校、市立堀川高等女学校と名を改め、一九四八年（昭和二十三年）四月の学制改革により市立堀川高等学校と改称、男女共学となった。その後、全国的に「堀音」で有名な音楽科の独立や「堀川の奇跡」で名を馳せた探求科の設置などの変化を経て今日に至っている。同校は同窓会の活発な活動でも知られ、特に女性の積極的な関わりが活動を支えるソフトパワーとして評価されている。その堀川同窓会の現状を、同窓会長・市田ひろみ氏に伺った。

堀川高等学校の同窓会では、会長は女性が役に就いておりますが、これは別に元が高女だったからというわけではありません。私が会長に就任したのは、それまであまり動きのなかった同窓会を活発化させようという思いが会員の中にあって、その一環だったと思います。本音を言いますと、当初は、なぜ会長になったのかもよくわかりませんでした（笑）。ただ、私自身は四回学校をかわっていまして、自分の居場所の不確かさのようなものを感じていたこともあり、同窓会を通じた同窓の方々とのお付き合いがなかったら、どんなに寂しいことだろうと常々思っておりましたから、同窓会長になってほしいと要請されたとき、行き先不明の手探り状態を覚悟しつつお引き受けした、ということを覚えております。

さて実際に同窓会をどう立て直すか、どう運営していくか、画期的な方法などはありませんし、手近なところから少しづつ進める他ないだろうと思い、意識して会員の方にお声をかけたものです。そして色々な方とお話をしていくうちに、同窓会の活性化のためのポイントが見えてきたんですね。それは別に大げさな事でもなんでもない。組織の中に「世話焼き」が居るかいないか、それだけなんです。「世話焼き」なんて、と思われるかもしれませんが、そうした方の地道な努力によって、いくつものグループが出来、その大小のグループが集まり、からみあって、最終的に同窓会を形作っている。みんなが、趣味であれ何であれ共通のテーマを持って集まったり親しくお話をする中から、同窓会の活動への提案なども生まれます。「世話焼き」というのは、基本的に善意の人の活動です。そしてそこには気配りも欠かせません。同窓会活動にある最も重要なことが、この気配りなのではないかとも思います。気配りの先には、もちろん他者を思いやる心があります。広い意味での優しさですね。そしてそういう気配りや思いやりは、女性に特に顕著だと思います。女性のソフトな「繋ぐ力」は、さまざまな場面で、それこそ力を発揮していますし、互いに思いやる心が作り上げる関係は、同窓会をよりよいものにしていく原動力でもあると思います。ですからそういう空気作りが大切ですし、それを継続的に次の世代へとつなげていくことも忘れてはいけません。

現在、堀川同窓会では、役員が会員の活動についてあれこれ言うことはありませんし、自由に交流をすすめてくださることを推奨しています。組織として何かを指示したりするのではなく、他のグループの活動の実例を紹介するなどして、あくまでも会員の自主的な活動と発展を促す、というのが基本です。一見すると放任主義のようですが、本来が個々人の自主的参加により構成されているのが同窓会ですし、その意味で現在の自然発生的に展開された活動の広がりには満足しています。

ただ女性会員の場合、卒業後数年は積極的に集まりなどに参加されますが、結婚や出産、子育ての期間は、同窓会に割ける時間は少ないのが実際です。それでも子供の手がかからなくなった後は、かつての同窓の友の顔が懐かしく思い出されることでしょう。そうした女性たちが同窓会活動に参加することで、人生をより豊かにしてほしいとも思いますし、同窓会への積極的な参加を呼びかけてもおります。

私たちの同窓会活動は、他校同窓会とさして変わらないものだと思います。平凡といえば平凡ですが、活動に参加されている特に女性の方はみな生き生きとしています。自分の所属する場所のひとつとして、良い雰囲気、良い伝統がこれからも続くことを願って、私も同窓生の間を取り持つ「世話焼き」の一人を努めていこうと思っています。■

▲堀川高等学校キャンパス

# 立ち上がる女性部会

## 新潟県立高田高等学校校友会 女性部会

### 同窓会活動の更なる活発化をめざす 女性部会というカタチ

●連絡先
〒943-8515 新潟県上越市南城町 3-5-5
新潟県立高田高等学校 校友会事務局
TEL / FAX 025-552-1158
E-mai : takada-k@sky.plala.or.jp
川室　優（かわむろ・ゆう）氏　女性部会会長（校友会副会長・高 16）

●新潟県立高田高等学校では、二〇一五年に校友会（同窓会）に「女性部会」を設立し活動を開始した。近年、存在感を増している女子会や、広範囲に影響を及ぼしている女性主導の各種の活動だが、そのような波は、保守的に捉えられがちな同窓会活動の世界にも押し寄せて来ているようで、方々で女性を中心とした新しい同窓会活動の話を聞く。そうした活動の内容はさまざまだろうが、進学校で男子校の色彩の強い高田高等学校校友会の「女性部会」とはいかなるものか、その成立の経緯と会の理念、そして活動の方向性を校友会の副会長であり女性部会の会長である川室優氏に伺った。

私は一九六四年に高田高校を卒業してから医大に進み、医師となった後に家業である病院を継いでおります。その後、母校の高田高校の校友会副会長を永く務めて参りましたが、多忙を極めておりますこともありまして、ここ数年、このあたりで校友会活動の一線から身を引きたいと考えておりました。しかし責任ある立場の人間が、校友会に対して何らかの貢献をした上でならまだしも、ただ忙しいから辞めますと言って去るわけにもいきません。しかも校友会活動は年々下火になってきておりますし、会員数も減少傾向にあります。もちろんこれは社会の変化、特に少子化の影響が大きいのですが、だからといって手をこまねいているわけにもいきません。

そこで考えたのが「女性部会」の創設でした。一般的に、これまでのいわゆる同窓会活動だけでは、同窓会が直面している会の長期凋落傾向は改善されないと思いますしアクティブな活動も見込めません。ここは思い切った組織改編なり活動なりをする他はないと思いました。そしてそれが私の場合「女性部会」創設だったんですね。

特に、歴史のある学校の場合、同窓会にはかつての男子校だった時代からの歴史がありますし、よく言われる質実剛健だとかの勇ましいモットーがその活動の中心を貫いていることが多いと思います。それはそれで結構なんですが、ともすれば女子生徒のことは忘れられがちなんですね。私が高田高校の生徒だったころで一学年二百六十名のうち女子は四十名ほどでした。共学になった一九五〇年時には二百六十四名中女子は二十二名と校史にあります。確かに女子は少数派ですが、校友会員には違いありません。女子は家庭に入ったり子育てに忙しかったりと、男子ほど自由がきかないことが多いのも事実です。その結果、種々の校友会活動から遠ざかってしまうというのも事実です。でも、そうであれば、女性が気軽に参加できて最終的に校友会が活発化する方法を考えればいいというのが、私のそもそもの発想だったのでございます。

そのような経過の中で、「女性部会」は二〇一三年に校友会の総会で承認されました。そしてその後、幾度かの準備会議を経て本格的に活動を開始しました。活動の具体的内容はと言いますと、社会で活躍しておられる会員の講演を軸に、会員相互の親睦交流会を兼ねての食事会がメインで、もちろん会のこれからの展開に対する意見交換、希望などを話し合うというものです。この「女性部会」をきっかけとして会員相互のお付き合いが生まれ発展してくれれば嬉しく思います。発足してまだ間もない会ですが、会員のこれからの活躍に是非期待しています。

ただ、女性部会には幾つかの問題もあります。ひとつは予算です。現在は校友会本部から年五万円の予算を頂いていますが、これではとうてい足りませんから、女性部会がその都度何らかの工夫をしてしのいでいます。それと所属先が複数になれば、会費はどこに納めるのかとか、またその使途についてなど、会費のあり方の問題が生じます。更にPRの方法やそれに関連するHP作成、通信費の問題、等々、どちらの同窓会にも共通する事柄があります。こうした問題についても、対話を重ね、より良い形を作っていきたいと考えています。

我ら「女性部会」の目的は校友会と同じく学校支援です。会員の親睦も交流もすべては母校を支援する上での基礎を成すものと考えています。それがまた女性部会会員のアイデンティティにもなります。当然のことながら「女性部会」は校友会からの独立を目指しているわけではなく、あくまでも校友会の、ひいては母校の、更には地域の発展に寄与することを第一義とする組織なのです。■

女性部会での交流

# 女子グルメの会

## 茨城県立水戸第一高等学校 東京知道会（同窓会）

### 美味しい食が結ぶ 美味しい出会い

◀左から
前列：荻野 孝野（おぎの・たかの）S42 卒
　　萩谷 清子（はぎや・せいこ）S48 卒
後列：平林 宏子（ひらばやし・ひろこ）S62 卒
　　宍倉 美恵子（ししくら・みえこ）S58 卒
　　木村 真理（きむら・まり）S61 卒　の各氏

●「東京知道会」は茨城県立水戸第一高等学校の首都圏地区の同窓会で、会員交流のための企画イベントが一年を通じて盛んに行われている。「女子グルメの会」もその一つで、一九八五年以来の長い歴史があり、東京知道会の主要な活動メニューとなっているという。その活動の趣旨と実際について、主導的役割を果している方々にお話を伺った。

「女子グルメの会」は、一九八五年に女子会員の総会への出席を増やすことを目的に始まったものです。催しの名称は「女子会員の集い・第一回フランス料理を食べる会」、お店は赤坂のシド、参加者は二十六名、「おいしい食事と楽しいおしゃべりに花が咲き、考えていた以上になごやかで、にぎやかな会」になったと当時の会報にはあります。会は大好評で、ぜひ毎年開催してほしいという意見が圧倒的だったようで、以後毎年開催することになったと聞いています。

この会は東京知道会の女子会員の親睦を軸とした集まりですから、東京知道会の女性会員であれば、どなたでも参加できます。現在は年一回、都内のレストランで開催していますが、女性という立場や家庭のこともありますので、会は比較的参加しやすい昼間に行われています。お食事の時間は二時間半から三時間程度。現在ではフランス料理にこだわらず、さまざまなお料理を楽しんでいます。

一九九八年、男性会員からの強い要望があり、十三回目からは男性会員が加わった「グルメの会」（後の「味彩（あじさい）会」）となりました。しかしそうなると普通の同窓会・飲み会と変らないわけですし、当然のことながら「女子だけの会」という特長が失われてしまいます。そうしたこともあって、二〇一二年、久しぶりに「女子グルメの会」が開催され、「味彩会」は翌年六月を最後に、また元の「女子グルメの会」に戻りました。現在は企画イベントの中で唯一の「女子会員だけの集まり」として活動を続けています。

女子だけの集まりの特長は、普通の同窓の集まりとは違い少人数なことでしょう。男子校の色彩の強い水戸一高では、現在でこそ女子が四割を占めていますけれども、かつては一学年五百名中、女子は三十名程度でした。それもあって、少数派の女子は結束するのかもしれませんね。

一方で、少人数であることは卒業年次を問わず仲良くなれる状況でもありますし、年齢を超えた繋がりが生まれやすい。繋がりができれば会の精神や考え方などが継承されていきますし、より良いものになっていく可能性も高まります。しかも女子だけの話もできますし、女性同士だからこその相談や助力も出来るでしょう。そこがまず第一にいいところです。

もっとも「女子グルメの会」のそもそもの理念に照らしてみれば、当会の現状はささやかなものに過ぎないかもしれません。それでも現在、お食事の前後に美術館での美術鑑賞など文化的なイベントを交えたり、また若い人には参加費を補助したりするなど、参加者を増やすためのさまざまな努力を続けています。これからの目標もいくつかありまして、進学や就職のため、東京近郊で独りで生活を送っている卒業生の「東京のお母さん」のような存在になりたいというのもそのひとつです。いずれにしても、多くの女性会員に参加したいと思ってもらえる魅力ある会にしたいと、現在も模索を続けています。

女子が集まってさまざまに話し合う機会というのは案外に少ないものです。そういうとき、同窓の仲間というのは実に頼もしい存在です。願わくは「女子グルメの会」もそのひとつでありたいですね。そして年に一度のグルメの集まりとは別に、もっと気楽な「女子会」も開きたいですし、それらを通して女子の間の交流を広げ、独自の力強い存在として認知されるよう楽しく努力していきたいと考えています。■

●連絡先　水戸第一高等学校 東京知道会
〒160-0004 東京都新宿区四谷 3-3-1 四谷安田ビル 6 階
四谷あけぼの法律事務所内
URL : http://tokyo-chido.com

▲銀座・エスコフィエにて

# わっぜ甲南 いっど甲南

## 鹿児島県立甲南高等学校同窓会 青年部会

「すごいぞ甲南　いくぞ甲南」
新しき空の下、新たなる旅立ち

▲甲南高等学校および前身の校章（左より）
現在の甲南高等学校／鹿児島県立第二鹿児島中学校／鹿児島県立第二高等女学校

●二〇一六年、鹿児島県立甲南高等学校同窓会に青年部会が発足し同窓会の新たなコアとして活動を開始した。近年、若い人の同窓会への参加が減少し、同窓会活動に支障を来す同窓会も多いなか、甲南高等学校同窓会では逆に「新戦力」たるべき若手が台頭し、母校と地域双方の発展に心を砕きさまざまに活動している。同窓会に携わっている方なら誰でも感じ、また苦労されていると思われる若手の積極的な同窓会への参加という悩ましい課題に「青年部創立」という形で解決を目指すその経緯を、現在青年部で活躍している方々に伺った。

### ミューズの来たりて 内なる荒野を照らすとき

どの同窓会でも同じだと思いますが、甲南高等学校でも毎年八月に行われる同窓会総会の後、懇親会が開かれます。甲南では不惑を迎えた卒業生が学年単位で実行委員を務めることになっていまして、たまたま二〇一五年は四十四期の担当でした。その際のプログラムの一つに、期を超えたメンバーによるフラダンスを企画しました。これは総会のためだけに結成されたもので、その他ゴルフなどのイベントとともに大いに好評を博し、この年の総会は大盛況のうちに終了し、担当の四十四期も大いに面目を施したわけです。

ここまでしたら、四十四期卒業生としての「良き思い出」で終っただろうと思いますが、総会以後も、期を超えた仲間がこうして集まり何事かを協働する楽しさ・喜びを忘れられず、それがずっと尾を引いていたんだと思います。我々の中に、どうにも鎮まりきれないものがあって、蓑田達志を中心とした有志の中で「音楽イベントをやりたい」という気運が高まってきたんです。そして企画を練っていくうちにメンバーが友人を呼び、人から人へとそのアイデアが伝わって、色々なキャラクターが色々な考えを持ち寄って規模も次第に大きくなっていきました。しかも期という枠にこだわらなかったこともあり、総会時のフラガールのように厚みを持った集まりとなっていったんですね。

### 「青年部会」への道・・・ 二つの情熱の交わるところで

他方、この様子を見ていた同窓会の副会長・久保氏から、このグループが企画している音楽イベントを、同窓会「青年部会」の行事として催行しないか、という申し出を受けました。久保氏は、若い人たちの同窓会参加率が低下しつつあり、また昨今の同窓会に対する意識の低下という現象を憂いていて、同窓会の活性化のために若い世代と年配の会員を繋ぐ、同窓会活動のコアともいうべき「青年部」の創設を意図していましたが、様々な事情で実現できずにいたようです。同窓会「青年部会」はまだ存在していなかったんですね。

無論、同窓会青年部会などというものは「作りましょう」と言ってすぐに組織できるような簡単なものではありません。久保氏には、我々のこの活動がそのまま「まだ見ぬ青年部」の姿に重なったのかもしれませんが、私たちにしても青年部のような活動的なグループが同窓会には必要だという認識はありましたから、「第一回の大きな花火」として青年部の立ち上げイベントにしよう、というお誘いには感ずるものがありました。いずれにせよ、こうした申し出を受けて「イベント実行委員会」は、それまでの活動の実績（他者への協力依頼、場所の確保、費用の捻出など）を冷静に判断し、議論を重ねた末に同窓会の勧誘の受け入れを決意しました。

我々は晴れて甲南高等学校同窓会青年部会を立ち上げることになったわけですが、かといって「青年部」そのものへの具体的なビジョンがあったわけではありません。また同窓会の名を冠して実行することで、無名の一団体でもがいているよりは、告知・チケット販売その他の面ではるかに大きな効果が得られるだろうという、いわば打算もありました。結論を言えば「青年部会」の名を頂くことによる効果は確かにありました。イベントの成功に向けての各種の活動、働きかけがやりやすくなりましたし、その結果イベントの内容もより一層深まっていったと思います。このようにして音楽好きの小さな集まりが企画したイベントは、規模を拡大して甲南高等学校同窓会の後援の下で行うことになったわけですが、このイベント自体の主催は「甲南・夜の文化祭実行委員会」です。

▲夜の文化祭ポスター

●連絡先
甲南高等学校同窓会事務局
〒 890-0052 鹿児島市上之園町 23-1
TEL / FAX : 099-257-0024
e-mail : zimukyoku@kounan-dousoukai.jp
URL : https://www.kounan-dousoukai.jp/

◀個性溢れる薩摩のつわものたち・左から
●上野欣一（うえの・きんいち）29 期●外園紗都子（ほかぞの・さとこ）44 期・青年部会長●三浦洋一（みうら・よういち）26 期●蓑田達志（みのだ・たつし）33 期・青年部会顧問●鵜木達巳（うのき・たつみ）46 期・青年部会副部会長●木浦和子（きうら・かずこ）45 期●木浦学（きうら・まなぶ）43 期・青年部会副部会長●谷口かおり（たにぐち・かおり）44 期●引地 渉（ひきち・わたる）36 期　の各氏

イベントの実現に向けては、関連する分野の専門のスタッフが必要になります。初めは「気分」であったものが、プランが練られていくにつれ質的にこうした「プロジェクト」に変っていくのは避けられないんですね。このイベントも、その例に漏れず多数の人たちに支えられ、その協力を得ています。そして「縁の下の力持ち」として、終始イベント実現の中心となって活動したのが八人のサムライです。

## そして「夜の文化祭」は始まった

二〇一六年三月二十六日、「夜の文化祭」は鹿児島市内のライブホールで挙行されました。それほど広いスペースではありませんが、それでも三百人ほどの入場があり、立ち見も出ました。この種のイベントとしては成功でしょう。プログラムのスタートは、もちろん「甲南・夜の文化祭」のきっかけとなった「甲南フラガール」によるフラダンスです。これに続いて、箏やピアノ、金管などの器楽演奏からゴスペル、ジャズ、弾き語りなどの音楽。またフラメンコなどのダンス。これに朗読、文化講演なども加わり、一つのジャンルにとらわれない幅広いパフォーマンスが展開されました。出演者にはプロの方も多く、見応え聞き応えのあった「文化祭」であったと自負しています。

開催にあたっては、八人のサムライを中心とした多くの甲南卒業生、そのまた友人、などの献身的努力が大きな力を発揮してくれました。更に甲南ＯＢの経営する三つのお店が、営業中にもかかわらず軽食を格安で出張販売して下さるなど、イベントに広がりを加えて下さいました。また思いがけない同窓との再会があったりして、まるで特別臨時同窓会をやったような気分でしたね。

## 情熱の後先に見た風景は

この時の経験からさまざまなことを学びましたが、それらは今後の同窓会活動において大きな糧になると思います。問題点や反省点は幾つもありますが、それを補うほどの効果もまたあったという実感もあります。中でも「期をまたいで甲南という名の下にまとまりを得ることが出来た」ことが大きい。実際「文化祭」以降、同窓会が広がったような充実感を覚えます。

イベントから一年近くが立ちましたが、甲南高等学校同窓会青年部会では「薩摩藩英国留学生記念館」を訪ねるバスツアーを企画実施するなど、母校と地域双方の発展を考え、同窓会を支える存在をめざし活発に活動しています。ゆくゆくは、イベント・文化活動を通じた他校同窓会との交流や、他の世界とのコラボレーションなども視野に入れた、アグレッシブな同窓会を提案していきたいと考えています。■

▲「甲南・夜の文化祭」

▲青年部会主催「薩摩藩英国留学生記念館バスツァー」

▲甲南同窓会青年部の旗を持つ西山世維良（にしやま・せいら）氏・60 期

# 未来を綴るために

## 大分県立大分雄城台高等学校同窓会 首都圏支部

### 都会で切り拓く 新しい未来を応援する

●連絡先
大分県立大分雄城台高等学校同窓会首都圏支部
〒102-0076 東京都千代田区五番町６グレイス五番町ビル３階
TEL：080-3426-7183（担当：梶原）
MAIL：oginodai_syutoken@mbr.nifty.com

右：小形 慎一郎（おがた・しんいちろう）氏（首都圏支部長）
左：梶原　修（かじわら・おさむ）氏（首都圏支部事務局長）

●大分県立大分雄城台高等学校同窓会の首都圏支部では、母校の生徒が修学旅行で来京した時に、生徒を対象とした「先輩と語る会」という催しを開いている。当日は支部の総力を挙げて催しに臨み、後輩たちの抱いている将来や進路などについての疑問や不安などに親身に答えるのはもちろん、自らが考えるきっかけとなるよう経験豊かな先輩の講演なども用意している。修学旅行の一環という位置づけも持ったこのユニークな催しの背景と実際を支部長の小形慎一郎氏と事務局長の梶原修氏に伺った。

この「先輩と語る会」を始めるきっかけとなったのは、この頃の少子化の流れと軌を一にして顕著になってきた生徒たちの「内向きの傾向」です。故郷の友人などと話していると、地元の高校を出て地元の大学に入り、いずれ地元で勤める、という人が増えてきたことを感じます。かつてのように、都会に出て一旗揚げるとか、刺激を受けながら勉学に励むなどといった覇気が見られない。もちろん都会にだけチャンスや幸福があるわけではありませんが、少なくともそういう選択肢も視野に入れてほしいと思うわけです。今は親元から離れず生暖かい空気に包まれている子供が多い。一方、親の方にも積極的に「可愛い子には旅をさせ」る気は無いように見えます。女の子ならなおさらです。

そしてこうした世間一般の「風潮」を憂いた先代の事務局長が学校に掛け合い、修学旅行の際に少し時間をとって、東京で活躍している先輩と交流することで刺激を与えよう、ということになったんですね。それが二〇一四年の秋のことです。

こうして生まれた「先輩と語る会」の目的は以下の通りです。

一、首都圏で活躍する同窓生の話を聞き、将来の自己像を描く。
二、共通の母校を持つ先輩と語ることで、自らのあり方・生き方を考える。

会の開始は、昼間外出していた生徒が戻り夕食を済ませた後の午後八時からです。二百五十人ほどの生徒が、十人くらいづつ一つのテーブルに着くと、初めにＯＢによる講演が三十分ほどあり、それから同窓会の先輩が各テーブルに加わります。先輩たちはテーブルを幾つか移動し、なるべく多くの生徒と話す機会を作ります。そうして全部で一時間半ほどの会は終ります。修学旅行の後で校長からの礼状とともに生徒たちの感想・メッセージが届きます。

この会は幸いにも初回から好評で、今では学校の方が乗り気になっています。それは、広い視野で社会を見てほしいという教育的見地からの配慮でしょう。普段テレビなどで世の中のことは知っているつもりになっていても、現実にそこで生きている人間の言葉は、やはりリアルな力を持っていますからね。

もう一つは、核家族時代の「オジやオバ」の役目でしょうか。子供と微妙な距離にあるオジやオバは、昔から一定の役割を果たしていました。更に、血縁とは別に先輩後輩などの関係から生まれる「疑似オジオバ」というものもあります。同窓会は、そうした血によらない「縁」で結びついている組織ですね。我々はまさにそうした役割も担っている。スクエアな「教育的観点」はもちろん重要ですが、そこに親しみのこもった「雑談」が入ることで、より滑らかな心のかよいあいが生まれるように思います。彼方に仰ぎ見る偉い人も人生のお手本だけれども、隣の親しい先輩との下世話なやりとりもまた、立派に人生の糧になってくれるはずだと信じて。

もっとも、正直に言えば、この会の実施はなかなか大変です。講師の手配を始めとして細々した作業が続きます。もう少しゆとりを持つには会員の協力が不可欠ですが、年齢的に中心となるべき会員の参加が少なく、一部の人にかかる負担が大きいのが実情です。「先輩と語る会」は幸いにも学校側の理解も得られ、また期待もされている催しですから、同窓会としても続けて行く考えです。ただそれと同時に、次代を担っていくメンバーをどう確保し活動していくか、この点を考えないことには充分なことはできません。会をよりよいものにしていくためにも、目下はそちらの方面の対策を練っているところです。■

▲先輩と語る会・会場風景

Relay Essay

# 私と同窓会

## 佐賀県立唐津商業高等学校
## 若桐（わかきり）同窓会会長　毛利 一幸

### 創立 100 周年記念名簿作成に想う

唐津商業高等学校若桐同窓会・会長
毛利 一幸（もうり・かずゆき）氏
（商高第 7 回・昭和 44 年卒）

「もうあんたしか おらんばい」と痛みをこらえながら同窓会長から言われた。「皆さんに異存がなければ・・」と答えるのが精一杯であった。翌月、会長は鬼籍に入られ、私は会長の残任期間を務め同窓会長に選任された。

私は高校入学当時、学校が嫌いでした。のびのびとできた中学と違い、商業高校の雰囲気に馴染めない上に、珠算は苦手、簿記の理論すらのみ込めないといった状態だったからです。しかし、その反動でクラブ活動の陸上競技には熱中しました。陸上は個人競技ですから、練習をすればするほど記録は伸び、国体出場を果たし大学進学の道まで開けました。大学四年の時、恩師から非常勤講師を依頼され、母校の教壇に立つ事になりました。人生というものは実に皮肉なもので、嫌いだったはずの学校との縁は深まるばかり、遂には同窓会長まで引き受けてしまったわけであります。が、歴代の会長は企業のオーナーであり、商工会議所の役員やロータリークラブ等のメンバー、所謂地域の名士でした。ところが、私は一切の公職もない小さな建設会社の副社長、とは言ってもただの勤め人です。矍鑠（かくしゃく）とした先輩方から見れば私は若輩の同窓会長であります。そんな重苦しい日々を過ごしていた頃、私は同窓会名簿を手にしました。何度も繰り返し、読み解くように見ていると、無味乾燥な名簿の中に同窓の方々の互いの関係やそこにある物語が見えて来たのです。

若桐同窓会には本部の他に関東、関西、福岡、佐賀と支部があり、私はそれぞれの総会に出席しますが、事前に同窓会名簿で参加されそうな方達の卒業年次を調べていると、皆さんとの会話が弾み有意義な交流ができます。

平成に入り、携帯電話の普及はめざましく様々な交信が可能になりました。しかし、同窓会活動を行っていく上で最も重要なのはデジタル情報ばかりではなく、アナログの同窓会名簿です。私はこれこそが同窓会にとって不可欠のインフラだと考えます。ですから、名簿の更新や作成を依頼する会社の選定は人任せにはできません。私は母校創立百周年記念名簿作成に当り、複数の名簿会社を訪問し、実際に作業現場を見学しました。その結果、（株）サラトを選択しましたが、決定づけたのは実績や処理能力ばかりではなく、担当者の的確な説明と来訪者に対する社員の皆さんの姿勢でした。具体的な事については控えますが、同窓会活動の基盤となる会員名簿製作に対する真摯な眼差しを社員の皆さんから感じ取ることができたからです。

母校は昨年、夏の甲子園大会に出場しました。夏の甲子園出場は極めて短い時間に極めて多くの事に対応しなければなりません。学校の事務方と同窓会の機動力が問われるまさに一大事ですが、サラトさんには全国の同窓会員に対し円滑迅速に対応して頂きました。お陰様にて各支部との連携も順調に進み同窓会と教育振興会が一丸となって甲子園球場のアルプススタンドから応援することが出来ました。同窓会活動の成果を多くの会員が共有した瞬間でした。

近年、個人情報の掲載について不安を持つ同窓会員も少なくありませんが、名簿の有効な活用によって、様々な犯罪を未然に防ぎ駆逐することも可能だと思います。私は同窓会が強いネットワーク力を構築できないかと、今日もまた名簿を開いています。

◀唐津商業高等学校正門

●連絡先
佐賀県立唐津商業高等学校 若桐同窓会
〒 847-1422
唐津市元石町 235-2
唐津商業高等学校内
TEL: 0955-72-7196（代表）
FAX: 0955-70-1024
E-MAIL: karatsushougyoukoukou@mail.saga-ed.jp

# 図書館に行こう!!

## 埼玉縣立本庄高等學校同窓会

### 図書館は第二の勉強部屋
### 学校・PTA・同窓会の支援の絆

右・奥　千加（おく・ちか）氏
本庄高等学校教頭
左・川上芳男（かわかみ・よしお）氏
本庄高等學校同窓会・事務局長

●連絡先
〒367-0045 埼玉県本庄市柏1丁目4番1号
埼玉縣立本庄高等學校同窓会事務局
TEL 0495-21-1195（代）／FAX 0495-25-1024
http://www.honjo-h.spec.ed.jp　E-mai : info@honjo.spec.ed.jp

●埼玉県立本庄高等学校では、二〇一五年九月から、放課後午後八時まで図書館を学習室として開放することを始めた。同様の事例は数多くあると思われるが、本庄高等学校では学校関係者、とりわけ同窓会の柔軟な協力態勢の存在が大きく、通常直面する「誰が管理監督するのか」というきわめて現実的な問題に対しても地域ぐるみで解決するなど、同窓会の本分である「母校支援」の活動に積極的に関わっている。この活動の実際について、同窓会事務局長の川上芳男氏と本庄高等学校教頭・奥千加氏に伺った。

埼玉県立本庄高等学校は、平成二十五年（二〇一三）に県立本庄北高等学校を統合し、新しい本庄高等学校として出発しました。これにより進学校としてこれまで以上に勉強や部活に拍車がかかったわけで、高校生活にも活気があふれ、関係者として大変喜ばしく思っています。本校ではもともと電車通学の生徒が多い上に部活も活発で、そのため帰宅して夕食をとると眠くなってしまい勉強ができなくなってしまう、という声がありました。それならばいっそ学校に居残って勉強したほうがいいという生徒も多く、空いている教室などで自主的に残って勉強していたのですが、あちこちバラバラに居るものですから、教師の目が届かない。それならば、ということで二〇一四年三月に新しく建てられた図書館を、放課後は自習室として生徒に開放しようということになったのです。

新しい図書館は広く明るく居心地のいいスペースで、生徒にも好評ですし、学校としても「見守り」ができます。そういう学校側の姿勢は保護者にも理解されていると思っております。

図書館は大きなワンルームのような構造で、入り口から離れた静かな二カ所に共用机があり、そこが学習スペースで、おおよそ二クラス分、約百人が利用できます。更にパソコンの使える五席が別途用意されています。

開館時間は午後八時まで。土曜日は基本的に地域の人たちに開放されていますが、土曜日に授業がある時には午後四時四十五分まで開館しています。利用者数は毎日二十から三十人くらいです。試験の前など、百人を超える場合もあり、その時は隣の新館も開放します。

この活動で一番の問題は「見守り」の人員の確保です。教職員の勤務時間は午後五時までですから、開放している午後八時までの間を誰が詰めるのか、学校と同窓会でさまざまなアイデアが出され検討されました。当初はシルバー人材センターに依頼することも考えましたが、議論の末に、PTAと同窓会のボランティア活動で当番管理をし、見守りをすることになりました。

以来、春に新入生が入ってくる際に、PTAに向けてこの活動の趣旨を伝え、「見守り」をしてくださる方を募っています。同時に、同窓会にも呼びかけを行っています。そうして「当番表」を作成し「見守り」をお願いしているわけですが、時には急に事情が発生して出られなくなることもあります。しかし、図書館の開放は既定のことですから実施しなくてはなりません。そういう時にも同窓会がそのネットワークを活かし、対応しています。

「見守り」は一人体制です。終了後に簡単な日誌を書きます。その後、図書館のカギを教頭が受け取り、これで「見守り」の作業は終ります。本校は二人教頭ですので、交替でこの作業に当たっています。

この図書館の開放は、ただ単に図書館を三時間長く開けておくということではありません。傍から見ればどうということもないことかもしれませんが、生徒に少しでもよい学習環境を用意するという理念を実行するには、その背後にある諸問題にも眼を向けなくてはなりません。ですので同窓会では、新年の集まりなどに教職員を招き、さまざまな事について互いに忌憚の無い意見を述べ合っています。こうした同窓会と学校の会合というのは大変重要で、同窓会は母校支援をする上で、今本当に学校が必要なことを知ることができますし、学校・保護者・同窓会の三者が協力して生徒の育成を行うという理想にも近づくことができると考えています。

私たちにとって、図書館の開放はその最初の一歩なのです。■

▲本庄高等学校のキャラクター「ほんたん」

▲学習机。仕切りを設けることで気が散らず勉強に集中できると好評。

Our Proud

# わが学び舎

## 愛媛県立西条高等学校 道前会（どうぜんかい）

質実剛健　文武両道　気品と清楚

愛媛県立西条高等学校道前会 事務局
http://www.geocities.jp/saijodozen/index.htm
〒793-8509
愛媛県西条市明屋敷 234　西条高校内
TEL・FAX 0897-53-2192

### 沿革

**明治から平成へ**

本校の創立は明治二九年にさかのぼり、当時の地域の方々の愛媛県東予地区にぜひ中学をという熱い思いが結実し、本校は愛媛県尋常中学東予分校として開校した。その後、明治三一年に西条藩陣屋跡を学び舎と定め移転し、さらに翌三二年に愛媛県西条中学校として独立した。その後、明治、大正、昭和、平成と四代にわたる激動の時代を乗り越え幾多の変遷を経ながら、時代の進展とともに着実に躍進を遂げ、全日制においては普通科、理数科、商業科、（衛生看護科：昭和四十七年四月設置・平成十六年三月閉科）を設置するとともに、定時制をも併置する総合制高校となった。■

### 表紙写真・解説

校地は江戸時代の西条藩陣屋跡で堀の内側にあり、堀には噴水が設置されている。また、陣屋の正門である大手門がそのまま使われているという、全国でも二校しかない校門が表紙写真である。大手門の建造年代については平成十四年～十五年の解体修理でかなり詳しい事が分かっており、建築様式から江戸後期から末期の建物として特徴付けられる。また、これを裏付けるものとして解体工事で、大棟の鬼瓦に「泉州谷川瓦屋伊兵衛」の「へら書き」（鬼師のサイン）が発見された。泉州谷川の古記録によると、瓦屋伊兵衛と名乗る人物はただ一人であることから、大手門は瓦屋伊兵衛が生きた時代、即ち「寛政の頃」に造られたものと推論できる。■

▲創立 120 周年に大手門に大地球儀を据えた

**大手門の大地球儀**

本校が、独立して西条中学校となった際、当時二年生であった元国鉄総裁であり元西条市長でもある「新幹線の父」十河信二先生は、独立の祝賀式の飾り付けとして、大手門（正門）の屋根の上に大地球儀を据え「この門をくぐる者は将来世界を背負って立つべきである」と演説をした。

本校は、この十河先生の精神を受け継ぎ「グローバル人材の育成」を目標に掲げ教育を実践している。そして、創立一二〇周年という人に例えると大還暦という大変記念すべき年を迎えるに当たり、十河先生の後輩たちへの熱い思いを伝えるため、大手門に大地球儀を据えた。これは、本校生徒が十河先生の熱い思いを心に刻み有意義な学校生活を送り、『将来世界を背負って立つ』人材になることを祈念するためである。■

**道前会館（同窓会館）**

道前会は旧制西条中学以来の名称で、旧制西条高等女学校と西条南高校普通科の卒業生をも合わせた本校同窓会のことである。道前会館は昭和六十年に本校創立九十周年記念事業として道前会が建築した。大正十三（一九二四）年に創立二十五周年記念として建築されて近在に誇るべき大正期の建物であった旧会館のしょうしゃな面影を生かしている。一階は事務室に食堂、二階は会議室、三階は和室。この会館の竣工により本校から旧時代の木造建築は総て姿を消した。■

▲旧道前会館
（創立 25 周年記念図書館）

▲現在の道前会館

Message

# ごあいさつ

## 福田 裕一

### 「特殊詐欺撲滅への取り組み」
### ― サイト開設から１年を振り返る

株式会社サラト・代表取締役
福田 裕一（ふくだ・ゆういち）

●特殊詐欺撲滅を目指すサイト
URL : http://www.salat.co.jp/bokumetsu/

同窓会の活動目的には、「会員相互の親睦を深める」ことと、もうひとつ「母校の発展に寄与する」ことがあります。それら目的達成のための基盤となるものが名簿の整備だということは同窓会役員をはじめ多くの卒業生（同窓会員）にご理解と賛同を得ております。

一方で、ご承知の通り昨今の個人情報保護法の施行や現在社会問題となっている特殊詐欺の横行を理由とした同窓会名簿に対する批判的なご意見も一部あり、どの同窓会も名簿作成について慎重に議論されていることも事実であります。

そのような中で弊社は、個人情報保護法が施行される以前の平成十三年には「プライバシーマーク」を取得し、現在も二年ごとに更新しております。また、年間累計約一千万通発送している各同窓会の会報誌などに、特殊詐欺についての注意喚起を訴える記事を掲載するなどの対策をとっておりますが、これだけでは不十分と考え、新たな対策を模索しておりました。

新聞・ＴＶやインターネットなど各種メディアには、特殊詐欺に関する報道が毎日のようにあり、警察の懸命な捜査や取り締まりのほか、政府や自治体だけでなく金融機関や企業・各種団体なども積極的に注意喚起や啓蒙活動などを行っています。わたしたちサラトは、これらの活動と軌を一にして、平成二十八年四月一日に「特殊詐欺撲滅を目指すサイト◎全国の同窓会名簿を作る株式会社サラトが特殊詐欺撲滅を目指してサイトを作ってみました」という名のサイトを開設いたしました。具体的には、特殊詐欺に関する手口の紹介や全国の都道府県警のＨＰや相談窓口のリンク集のほか、インターネット上で配信される事件や、摘発、逮捕に関する情報、警察や各種団体・企業などの取り組みなどに関する情報を掲載しています。無論、これだけで特殊詐欺が撲滅できるわけではありませんが、ひとりでも多くの人たちに防犯意識を高めてもらい、特殊詐欺被害の抑止に繋がっていくことを期待しています。

サイト開設から一年、約四千件の情報を収集し配信して見えてきたことは、発信される情報は被害の事実だけではなく、実はそれと同じくらい摘発や逮捕、金融機関職員などの勇気ある声掛けによって未然に防いだ例、さらには防止・抑止に向けたキャンペーンや取り締まり運動などがある、ということです。更に警察と連携し、地方紙のＨＰ上で不審電話に関する情報などをリアルタイムに配信している都道府県もあり、官民が協力して積極的に取り組んでいる様子も浮かび上がってきました。

「何もしないことが防止・抑止になる」のではなく、同窓会や学校が卒業生や地域社会に対してどう働きかけていくのか。わたしたちサラトも今以上に貢献できるよう一緒に考え、取り組んでまいります。

サラトは昨年（平成二十八年）、全国百九十一校の同窓会名簿を納品させていただきました。発行にご協力をいただきました同窓会・学校・会員の皆様に、心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

### ●制服リカちゃんに新しい仲間が増えました

ご好評をいただいています「オリジナル制服リカちゃん」に新しい仲間が増えました。「鹿児島県立川内高校」「福島県立葵高校」です。

この制服リカちゃんの製作はサラトが代行しております。また、製作経費も同窓会や学校からいただかずにおこなっています。皆さんの学校でも「制服リカちゃん」にご興味がございましたら、お気軽にご相談ください。
０１２０・１３８・０００（代表）

葵高校

川内高校

**同窓会のチカラ** 2017年号／Vol. 9
（2017年5月 発行）
編集・発行　株式会社サラト
本社・〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町 172
TEL 0120-138-000 ● FAX 079-224-7746
東京支社・〒110-0016 東京都台東区台東 4-18-7
シモジンビル 5F
TEL 0120-03-6381 ● FAX 03-3832-6389
E-mail　eigyo@salat.co.jp
URL : http://www.salat.co.jp
SALAT
Salat Corporation